

2006年 3月 7日

各 位

杏林製薬株式会社
東京都千代田区神田駿河台2-5
(証券コード 4560 東証一部)

糖尿病治療薬「KRP-104」の米国でのフェーズ1開始について

杏林製薬株式会社(代表取締役社長; 荻原郁夫)は、当社が創製した糖尿病治療薬「開発コード; KRP-104」の第 相臨床試験(Ph 1; フェーズ1)をFDAにIND(Investigational New Drug Application: 新薬治験開始)申請し、当月より米国において被験者への投与を開始いたしました。今回の「KRP-104」の臨床試験は、杏林製薬(株)が単独でFDAにIND申請した最初のプロジェクトとなります。

「KRP-104」は、当社とActivX社が2002年より共同研究を開始したプロジェクトで期待通りのスピードでリード化合物の探索研究を行うことができました。本剤は、DPP 阻害作用を有し、インスリン分泌ホルモンの分解を抑えることによりインスリン分泌を亢進し血糖低下作用を示します。食後の高血糖状態においてインスリン分泌を促進する新規メカニズムを有し、低血糖などの副作用の発現が少ない糖尿病治療薬として単独ないし他の糖尿病治療薬との併用効果が期待されます。

当社は中期経営計画キョーリンMIC'09計画において「グローバルな創薬ビジネスをコアとし、信頼をベースとした特色ある複合ヘルスケア企業」を掲げ、創薬への重点的投資と後期開発品導出をゴールとする創薬ビジネスモデルへの転換を目指しています。具体的な取り組みとして、海外での臨床試験の実施においては、当社子会社であるActivX社の中に臨床開発拠点として海外臨床試験の立案・管理を行う組織を設置し、グローバルな創薬研究開発の実施と早期のPOC(Proof of Concept; ヒトでの有効性と安全性の確認)達成を図ります。今回の米国での臨床試験の着手も、こうした当社の創薬研究強化の一貫であり、POCまでのスピーディな臨床試験の実施に取り組みます。

以 上

参考資料

DPP (Dipeptidyl - Peptidase) 阻害剤とは

グルコースを経口投与すると、経静脈的に投与する場合に比べて、インスリンがより多く分泌されることが知られています。これには、消化管から分泌される消化管ホルモンが関与しており、インクレチンと総称されています。インクレチンの一つであるGLP-1(Glucagon-like peptide-1)は血中グルコース濃度依存的なインスリン分泌作用を有しています。DPP は、GLP-1を加水分解し不活性化する酵素で、DPP 阻害剤により阻害された結果、血中のGLP-1の活性は保持され、インスリン分泌が亢進されます。DPP 阻害剤は、既存の抗糖尿病薬とは異なり血中グルコース濃度依存的なインスリン分泌促進作用を有するため、低血糖発現が少ない糖尿病治療薬として期待されています。

この件に関するお問合せ先

杏林製薬株式会社 経営企画部
TEL: 03 - 3293 - 3414
FAX: 03 - 3293 - 3454